

けせんぬま未来人口会議キックオフシンポジウムを開催しました！

5月20日（土）、気仙沼中央公民館にて、「けせんぬま Well-being ～人口減少社会における地域課題と戦略～」をテーマにキックオフシンポジウムを開催しました。

基調講演

（一社）人口減少対策総合研究所理事長の河合雅司^{かわい まさし}氏を講師に迎え、「未来年表～人口減少日本でこれから起きること～」と題して、人口減少を前提とした社会構築の必要性や、人口減少対策を考える上での課題についてお話をいただきました。



パネルディスカッション

NPO 法人ウィメンズアイの石本めぐみ^{いしもと りくみ}氏、「コソダテノミカタ」の鈴木和海^{すずき かずみ}氏、ハローワーク気仙沼所長の小川暁憲^{おがわあきのり}氏、(株)ヤヨイサンフーズ気仙沼工場の吉田茂^{よした しのぶ}氏をパネリストに迎え、「Well-being と人口減少対策」をテーマに、本市における女性活躍や子育て支援の取り組み、雇用環境の特徴などから、市民の暮らしやすさを実現するためにそれぞれの立場で実施できることについて、意見交換と提案をいただきました。

けせんぬま未来人口会議では、「子育てファースト」、「子ども目線の気仙沼の未来」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性の活躍」の4つの分科会に分かれ、「子育て環境の改善」、「雇用の創出」、「雇用環境の改善」、「居住環境の改善」、「移住・定住の促進」の5つのテーマについて議論し、アクションプラン策定に向けて、具体的な取り組みアイデアを創出していきます。



「Well-being」とは…

個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、満足した生活を送ることができている状態、幸福な状態、充実した状態などの多面的な幸せを表す言葉です。

※パネルディスカッションの内容は、左記のように「グラフィックレコーディング」という手法を用いて、文字やイラストを使い、リアルタイムに記録しました。キックオフシンポジウムの詳細とグラフィックレコーディングについては、市公式サイトをご覧ください。



～本市の人口減少対策に対する考え方～

本市では今後、年に1,000人から1,300人ほどの人口が減り、高齢化と生産年齢人口の縮小も進んでいくことが見込まれています。著しい人口減少は、市民の暮らしを支える生活基盤を弱くし、その結果、地域力が低下することで、さらに人口減少が進む「負の連鎖」を招く可能性があることから、その緩和を図る取り組みが必要となります。

しかし、結婚や出産を望むかどうか、どこに住むのか、それは個人の自由意思に基づくものであることから、本市の人口減少対策に対する考え方は、ただ数を追うのではなく、人口減少を加速化させる要因を構造的に捉えて分析し、市民の「〇〇したいが、できない」を「できる」ように一つひとつ解決していくことで、その結果として地域の魅力が向上し、「住み続けたいと思えるまち」、「住んでみたいと思われるまち」を実現することが本質と捉え、取り組みを進めます。

「けせんぬま未来人口会議」では、官民が協働して気仙沼に住む人たちの暮らしやすさ（Well-being）を追求し、市民・企業・行政のアクションへと繋げていきます。